

新世紀とやま文化振興計画の改定(答申素案)に対する意見の概要と県の考え方

<パブリックコメントの概要>

○ 意見募集案件：新世紀とやま文化振興計画の改定 ○ 募集期間：H29.11.27～H29.12.26 ○ 意見提出数：14件

区分	意見の概要	県の考え方
次世代の育成	① デザインや舞台芸術、なぜ富山でと思われるかもしれないが、確実にその面白さを伝え、一流の人材を世界に送り出してほしいです。	国においては、2020年東京オリンピック・パラリンピックを「文化の祭典」として捉え、全国で文化プログラムを実施しており、こうした動きは、質の高い文化の創造と世界への発信を目指す本県にとっても大きな好機と考えています。そこで、「世界最先端の演劇祭である『シアター・オリックス』や、TOGA国際芸術村構想と連携した『利賀サマーシーズン』、世界の子どもたちが参加する『とやま世界こども舞台芸術祭』、『世界ポスタートリエンナーレトヤマ』の開催など、特色ある国際的な芸術文化振興事業の充実と発信」(P52)に取り組むとともに、富山県美術館等を活用した「若手芸術家の作品の発表や展示の機会」(P66)の提供などにより、次世代の担い手の育成を進めます。
	② 県出身のアーティストによる公演やワークショップは子どもたちにとって刺激になり、進路を考える上で、身近に考えることができる良い機会になると思います。	本県出身や在住の芸術家の協力により、県内各地での出前公演、県民の企画による音楽事業、演奏会などが行われており、引き続き出前公演やワークショップ等において、本県出身や在住の芸術家に協力を依頼していくとともに、「公立文化施設の主催事業において、県内出身の若手芸術家等の積極的な起用等」(P66)を行っていきます。
富山県美術館	③ 富山県美術館において 展示室以外の広い空間で、青少年とその家族がともに訪れることができる幼児や青少年向けの美術展等、例えば手に触れることができる工芸作品の展示などを開催できないでしょうか。季節によっては、屋外スペースを使った交流イベントやそれをインターネットで発信することも検討できるのではないのでしょうか。	主な重点施策に記載のとおり、富山県美術館では、創作体験ができるアトリエやギャラリーを活用し、親子で楽しめるワークショップのほか、県内外の一流の作家を講師としたワークショップや作品展示など、「『見る、創る、学ぶ』といった双方向の美術体験の機会の充実」(P59)や、アーティストによる公開制作の実施など「文化を通じた多彩な交流機会の拡充」(P59)といった、さまざまな取組みを進める予定です。いただいたご意見も参考にしながら、多くの方々に親しまれ、何度もご来館いただけるよう取り組んでまいります。
	④ 富山県美術館のミュージアムショップがもう少し拡充され、魅力ある商品が増えれば、それを目当てに訪れる来館者も増えるのではないのでしょうか。	主な重点施策に記載のとおり、富山県美術館を子どもや若者が、親しみやすく訪れやすい場とするために、「魅力あるレストランやカフェ、子どもの想像力を涵養する玩具や、若者の創意のきっかけとなるような専門書籍などを扱うミュージアムショップなど楽しい空間を活用する」(P61)こととしています。いただいたご意見も参考にしながら、多くの方々に親しまれ、何度もご来館いただけるよう取り組んでまいります。
大伴家持	⑤ 大伴家持の生誕1300年記念に係るイベントを県内全域で更に盛り上げるために、県民へのPRをもっと拡大し、親しみやすい家持イメージを植え付ける工夫があるとよいのではないのでしょうか。	県としても、大伴家持生誕1300年は、家持の魅力を発信する絶好の機会であると考えています。そこで、主な重点事業では、「大伴家持を知り、学ぼうとするきっかけとするため、…家持資料本を作成するほか、大伴家持生誕1300年記念事業の推進による家持の普及啓発と顕彰、越中万葉に関するイベントや企画展の開催によりその魅力を全国に広く発信し、県外からの来訪を促進する」(P64)こととしており、県民はもちろん全国に対してもPRを行ってまいりたいと考えています。また、親しみやすい家持のイメージを抱いてもらえるよう、主な重点施策のふるさと文学の振興と発信に、「マンガやガイドブックの活用、学校での短歌講座の実施等により、大伴家持や越中万葉の魅力を県民に親しみやすく発信する。」を追加します。
文化活動への幅広い県民の参加	⑥ 働く世代が鑑賞しやすいよう、県立の美術館等で「時間の後ろ倒し」を週1回程度実施したり、舞台公演を行うホールへの「親子室」(乳幼児を連れて鑑賞できる仕切られた鑑賞スペース)の導入徹底など、今後、遺漏なく検討していく必要があると考えます。	主な重点施策では、「美術館・博物館等における休館日の短縮や開館時間の延長など施設の利便性の向上」や、「県立文化施設の利用・鑑賞環境等については、県民ニーズに対応し適時、施設・設備等の機能の充実や計画的な修繕を実施する」(P54)としており、働く世代が鑑賞しやすいよう機能の充実等に努めます。
	⑦ 愛好者や創造者を育成・支援するための施策は活発に行われていると思いますが、舞台技術の専門家(舞台監督、舞台美術家、照明プランナー等)が不足していると感じます。若年層が現場に接する機会や、キャリアの浅い技術者の研修支援制度を設けたり、他県の団体やホールと提携を結び人的交流を図る等、人材育成を行う必要があると考えます。	主な重点施策では、「公演や展覧会を企画運営するために必要な専門知識や熱意を持つスタッフを養成する」(P54)としており、県民に質の高いサービスを提供できるよう人材の育成に努めていきます。
	⑧ 文化に関する県民アンケート調査では、イベントの情報入手先としてインターネットがポイントを伸ばしていることから、メールマガジンやSNSなどによる情報の発信をもっと増やしていくと良いのではないのでしょうか。	主な重点施策では、「インターネットやSNS等新しいメディアを活用したPRを促進する」(P78)こととしています。
	⑨ 高齢化による芸術文化に携わる人口の減少対策として、子どもたちが伝統芸能などを習う際の費用について、無料化や割引制度を作り、文化の裾野を広げられるようにしてはどうでしょうか。	伝統芸能は、長い歴史と伝統の中から生まれ、守り伝えられてきた地域の財産であり、地域で将来にわたって継承し、発展が図られるよう、「小さいときから地域に伝わる年中行事、伝統文化に参加したり、体験する取組み」(P66)を進めるとともに、「学校、地域において子どもが地域の伝統文化を体験する場の確保」(P66)に努めてまいります。
	⑩ 県民芸術文化祭について、この事業は県民にとって敷居も高くなく、身近で訪れやすい素晴らしい芸術鑑賞の機会ですので、より集客につとめてほしいと考えます。	県民芸術文化祭は、平成8年に本県で開催された国民文化祭の活動を継承する事業として、平成9年から県内4地区で順に開催しています。文化団体、学校、地域団体が幅広く参加し、期間中の出演者は約1,300人、入場者は約10,000人を数える県民、県内文化団体等の貴重な発表の機会と鑑賞機会の場となっています。引き続きより多くの県民に親しまれるよう開催を支援するとともに、PR等に取り組んでいきます。
学校教育との連携	⑪ 現行の授業カリキュラムには余裕がなく、芸術文化に触れたり、経験する機会が極端に少ないので、カリキュラムの中に芸術鑑賞をする機会をもう少し盛り込めないでしょうか。小・中学校では作品の鑑賞の仕方、美術館や会場でのマナーなど、学芸員から直接学べる機会があれば望ましいと思います。また、ある芸術分野で実績のある講師(外国人も含む)を招いた児童・生徒向けのワークショップ開催も考えられます。	これまでも学校教育の一環として、総合的な学習の時間に次代を担う子どもの文化芸術体験事業、学校巡回劇場などを実施しているところですが、富山県美術館において、「県内の小学生を招待し、美術の面白さを体験する対話型鑑賞授業等」(P63)や「学校単位での団体鑑賞、アトリエを活用した実技講座」(P61)の実施など、これまで以上に学校教育との連携を強化していきたいと考えています。また、「芸術文化指導者招へい事業により、国内外の優れた講師による指導で、舞台芸術分野の発表の成果も上がっているため、引き続き支援」(P57)するほか、富山県美術館等での「県内外の一流の作家を講師としたワークショップの開催」(P59)などの取組みも進めます。
	⑫ 学校外の文化活動やボランティア活動が評価される学内でのシステム作成をしてほしいです。	主な重点施策の「学校教育における文化活動の充実と地域における文化活動への理解の促進」に記載のとおり、まずは、「子どもたちが校外、地域における文化活動に参加することへの理解」(P64)の促進に努めてまいりたいと考えています。
	⑬ 「県外人は、魅了しているが、県民にはその価値が十分知られていない」(P30)。その背景に、文化財をただ見て終わってしまうような従来の教育、そして文化財の本来の価値・魅力をわかりやすく県民に伝えていく環境整備は手薄であることがあるのでは。この点を改善することは喫緊の課題だと考えます。	「文化財の活用、学校教育における文化に関わる教科及び教科外での指導法の研究と教材化、総合的な学習の時間における文化面での指導方法等について、教育委員会と協力して、学校との連携のための取組みと推進する仕組みづくりの促進を図る」(P90)こととしており、文化財の価値・魅力をわかりやすく県民に伝えていくことができるよう教育委員会と協力して取り組んでいきたいと考えています。
観光との連携	⑭ 富山県では、古いもの、伝統が大切に受け継がれていると思います。井波や八尾等で、景観や伝統文化を町ぐるみで大切に作る前向きさを感じました。県内を巡ると点々とそのような全国的にアピールできる古き良き魅力があります。新幹線で東京へのアクセスもより身近になったので、観光と連携して、静かで落ち着いた暮らしも大切にしつつ、産業の活性化にもつながっていくとよいと思います。	ご指摘のとおり、北陸新幹線の開業効果をさらに持続・深化させ、観光との連携による文化振興と地域の活性化を図ることは非常に重要だと考えています。そこで、主な重点施策では、「来訪者の多様なニーズに応えるため、文化遺産、伝統芸能等の文化を活かした観光資源を発掘・活用し、旅行ニーズに応じた観光モデルコースを開発・PRする」(P79)など、文化を活かした総合的な観光振興を推進します。